



mIRaI 通信

～輝く「未来」の中に「伊里」はある～

赤ちゃんが伊里中にやって来た

今年度も、3年生の家庭科の授業で「赤ちゃん登校日」を行いました。今年は、ほとんどが伊里地区のお母さん方と赤ちゃんが来校。けっこう近所の人もいたのかも？

備前市の保健課の方、愛育委員の方、地域ボランティアの方からもご協力を得て、衛生面もバッチリ整え万全の態勢でお出迎えです。

ちょうど七夕ということもあり、支援員の松井先生が頑張ってください、とてもステキな七夕飾りでお迎えをすることができました。

毎度のことではありますが、「無垢な命」というか、「小さな命」には敵いませんね。もう見ているだけで頬が緩んでしまいます。何をやってもカワイイ！！中学生たちも、始めは恐る恐るではありましたが、徐々にふれあいを深めていけたようでした。

考えて欲しいのが、人に限らずなぜ赤ちゃんの時はカワイイのか？ということ。動物たち（ネコやイヌ）も、2頭身や3頭身で、それはそれは絵にも描けないカワイイです。

それはズバリ、「守ってもらふ」ためです。人や動物は、頭が大きく頭身の小さいものをカワイイがる傾向があるそうです。確かにマンガやキャラクターなどでも、いわゆる「カワイイ系」は頭身は小さいですね。

動物にはそういう時期が必ずあります。守ってもらわないと生きていけない時期です。他の動物に比べ、人間はその時期がとても長いです。自力で歩くまでに1年近くかかるのですから。

それだけ、安心してゆっくり大きくなっていけるように進化したのですね。

自分たちも、そういう時期があり、守られてここまで大きくなったのだということをしっかり学んでほしいと思います。

そして、「守られる」時期から「守る」時期へと、あなたたちは成長していこうとしています。その責任をしっかり感じ取れる授業だったでしょうか。協力してくださった方々への「感謝」と共に、「責任」を学べた時間であったと信じています。



七夕飾りでお出迎え



ズラリ並んだお母さん・赤ちゃんズ



輪になってふれあいます



気持ち良さげにおネンネ
まるで本物のお母さん？



抱っこして立ってはみたものの (苦笑)



私の天敵「数学」の研究授業



最初にハッキリ申し上げておきますが、私は数学が苦手です (苦笑)。「この世に数学さえなければ…」と思った時期が、間違いなくあつたくらい苦手です。

そんな私が、早川先生の1年生の数学の研究授業に参加しました。「どうせわからんし、辛いなあ…」と、最初は完全なブルーモードです。「文字式の利用」ということで、立方体をつなげた棒の本数を文字式を使って表すという単元でした。

後半しか参加できなかったのですが、早川先生の分かりやすい説明、アニメーションなどが使われた興味深いデジタル教科書での解説、意見を言い合える班単位の活動と、私たちの時代では考えられない授業内容にビックリです。

「今この時代に生まれていたら、自分も数学が得意になっていたかもしれない」という錯覚を抱かせるに十分な授業でした。

生徒の諸君、ボクの方まで数学頑張ってください (笑)。

朋？遠方より来るあり 亦楽しからずや



5日の掃除時間のことでした。職員室前で掃除を見ていると、こちらに歩いてくるご婦人が2名。この日は、調子が悪くなり保健室でお迎えを待っている生徒がいたので、その保護者だと思い、声を掛けようとしたら、向こうから先に「教頭先生ですか？」「はい」「昔〇〇中におられた秋山先生ですよ」「え？はい、そうですが。」「久しぶりです〜〜、〇〇 (旧姓) です〜〜！」という会話になりまして、何と何と、私が新採用の時の中学1年生の生徒 (元) でした。まったく何年ぶりでしょう、それこそ30年以上ぶりです。もう23歳の娘をもついいお母さんになってました。

用事があり、友だちと一緒に他の中学校を訪れたところ、伊里中学校に私がいることを知って、飛んで来てくれたようです。そういう話を聞くと、教師冥利に尽きるというか本当にありがたいことですね。たまたま今はこちらに帰っていましたが、静岡県在住だそうで、もし教えた生徒たちみんなを確認できたら、ひょっとしたら日本全国47都道府県の全部に誰かがいるかも？とか想像は膨らんで楽しくなりました。

掃除時間のことだったので、突然のこととはいえ、掃除そっちのけで話し込んでしまい、掃除している生徒には迷惑かけました、ゴメンナサイ。でもとても懐かしく楽しく嬉しい時間でした。

「朋遠方より来るあり 亦楽しからずや」…論語のこの一節を思い出し、本当にそうだよね、と一人納得していた暑い暑い午後でした。